

特集2 新理事・監事・副学長 紹介

理事

八嶋 厚	経営戦略・評価・広報担当 副学長
岡野 幸雄	教学・附属学校担当 副学長
小見山 章	学術研究・情報担当 副学長
吉村 泰治	総務担当
杉戸 真太	財務・基金担当 副学長

監事

水谷 嘉之
戸田 一彦(非常勤)

副学長

岩間 亨	医学部附属病院長
廣田 則夫	国際戦略担当
林 正子	男女共同参画推進・環境対策・就職支援担当

愛される岐阜大学をめざして

岐阜大学は「人材養成を最優先事項として位置付け、豊かな教養と確かな専門的知識・技能、広い視野と総合的な判断力、優れたコミュニケーション能力に加え、自立性と国際性を備えた高度な専門職業人を幅広い分野で養成し、社会に輩出する」ことを教育に関する目標としています。また、研究に関しては「優れた教育を実践するための研究基盤を維持するとともに、独創的、先進的研究の拠点形成を目指し、その成果を社会に還元する」ことを目標に掲げています。

学生の皆さんに満足していただける教育環境を提供し、養成した人材が地域社会や世界中で大いに活躍されることを希望しています。大学の先生方には最適な研究環境を提供し、得られた研究成果が広く社会で活用されることを希望しています。このためには、大学の各組織や構成員の活動状況を丁寧にチェック(評価)し、学生・教職員の皆様により良い教育研究環境を提供し続けなければなりません(経営戦略)。

一方、大学で起きていること、大学が変化し続けていることを、社会の皆様タイムリーかつ正確にお伝えすることが大切です(広報)。ひとつひとつが大変難しいテーマですが、学生・社会・教職員の皆様方から愛される岐阜大学をめざして頑張ります。

Profile

昭和31年生まれ。鳥取県出身。京都大学工学部卒業。
昭和56年京都大学大学院工学研究科修士課程修了。
平成2年岐阜大学工学部助教授。平成10年教授。専門は地盤工学。

八嶋 厚



理事
経営戦略・評価・広報担当 副学長

よりよい教育システムの構築をめざして

最近、大学教育の質保証や学士力・社会人基礎力・就業力といった言葉があちこちで飛び交う中で、学生が在学中にどのような力を培うべきか、大学教育の内容を今一度見直すべきときにあることを実感しています。

本学の教養教育の語学については、各学部とも1年から2年の間に英語4コマと未修外国語2コマを必修化することで了解していただいたので、平成24年度からの実施に向けてカリキュラム構築に全力で努めています。しかしながら、コマ数の増加は必要な教員の確保という大きな課題に直面しますので、役員会でも十分ご理解をいただく必要があります。

就業力育成に関しても、教養教育推進センターや各学部の核になる先生方を中心にキャリア教育の内容やキャリアセンターの構築、学生の参画をめざして議論しているところです。

岐阜大学で楽しく学び、卒後は社会に貢献できる学生をオール岐阜大学で育てていくために全力投球します。

Profile

昭和25年生まれ。岐阜県出身。岐阜大学医学部卒業。
昭和55年岐阜大学大学院医学研究科博士課程修了。
昭和60年岐阜大学医学部助手。平成5年教授。専門は生化学。

岡野 幸雄



理事
教学・附属学校担当 副学長



理事
学術研究・情報担当 副学長

小見山章

大学はひとつの「生態系」

私が専門とする学問分野は生態学です。大学は、学生や教職員はじめ多様な構成員が、周りの社会に包まれながら、キャンパスという環境の中で教育と研究と社会貢献という機能を果たすひとつの「生態系」を構成しているとも言えます。生態系は全体としてひとつのシステムであり、それらの機能は互いに連関しています。岐阜大学にとって、研究の機能が充実すれば教育と社会貢献も充実するでしょう。よって機能の調和を大事にしなければなりません。このことを念頭に置き、研究環境の整備と社会連携の強化に努めたいと考えています。

活発な活動をよ活発にし、地味でも大切な研究活動には光を当てていきます。特に社会連携では、産業界との連携とともに、もう一方の鍵として、岐阜大学が地域の方に信頼してもらえるよう地域連携室を運営しています。地域連携室では、まず「地域」という言葉について室員間で勉強し、その後に岐阜大学が望まれる姿を模索しています。担当する分野の中で、急ぐところは急ぎ、しかし、根幹の考え方にかかわることは地に足をつけ、熟慮を重ねて歩むのが良いと考えています。

Profile

昭和26年生まれ。京都府出身。京都大学農学部卒業
昭和55年京都大学大学院農学研究科博士課程単位取得退学。
同年岐阜大学農学部助手。平成7年教授。専門は森林生態学。

法人化後の岐阜大学はいかに

国立大学は、国の内部組織から国立大学法人が設置する大学へと移行して6年になります。この歴史的な転換によって大学の裁量が拡大し、より自律的な大学運営が可能となりました。一方で、税金によって大学が支えられている面もあります。6年毎の中期目標・計画を設定し、その達成度について評価を受ける仕組みを通して大学運営を透明にし、広く社会の理解と信頼を得ることが求められています。さて、皆さんには法人化後の岐阜大学がどう映っているでしょうか。

基本的課題は、「効率的な運営」を実現し、「特長ある教育研究」とその「質の保証」を確保しながら、「有為な人材を育成」していくこと。地方大学として「地域社会の活性化」に貢献することです。「学び、究め、貢献する」大学という標語に課題への決意を込め、現下の厳しい諸情勢を乗り切ろうとしています。総務担当として、岐阜大学の圧倒的な存在感の実現をエネルギーにしなから選択と決断のトップマネジメントをしっかりと輔けられるよう職務に取り組んでいきたいと考えています。

Profile

昭和30年生まれ。山口県出身。広島大学政経学部卒業。
文部科学省、日本学生支援機構に勤務後、
北海道大学総務部長、九州工業大学理事・事務局長を経て、平成22年現職。

吉村泰治



理事
総務担当

杉戸真太



理事
財務・基金担当 副学長

『学びたい大学』『研究したい大学』へ

岐阜大学は、平成27年度までの6年の期間における高邁な理想に基づく4つの中期目標を掲げています。森学長の強い思いである『地方大学のトップランナーをめざす』ためには、これらの目標をひとつずつ着実に実行することが不可欠です。このような岐阜大学独自の優れた教育・研究活動が、限られた予算の中で最も効果的に行われるよう予算管理することが財務部門に課せられた役割です。

岐阜大学は2009年6月、学長の重要施策の一つとして「岐阜大学基金」事業を立ち上げました。これは、意欲的で優秀な学生の奨学金支援、若手研究者の海外研修・研究支援など、通常の大学運営費ではカバーできない事業を積極的に実施し、「学びたい大学」「研究したい大学」としてより魅力的な岐阜大学になることをめざす事業です。

学生・教職員のすべてがこの大学に誇りが持て、社会に巣立った卒業生の方から「岐阜大学で学ぶことができて良かった」と言ってもらえるような大学にしたいものです。

Profile

昭和27年生まれ。愛知県出身。京都大学工学部卒業。
昭和53年京都大学大学院工学研究科修士課程修了。
平成6年岐阜大学工学部助教授。平成9年教授。専門は地震工学。

優れた教育効果をあげてもらいたい

「監事って、どんなお仕事ですか?」とよく聞かれますが、従来の大学組織に無かった職名なので、学外の皆さんには馴染みがなくてわかりにくいことでしょう。

実は、監事とは、国立大学の法人化に伴って理事と共に新設され、国民の皆さんに代わって大学の経営・運営状況を見張るという大学にとっては怖い役職なのです。

ですから、われわれ監事は岐阜大学の実状を常によく把握しながら、①大学の健全性を保つために、経理上のみならずその他の業務上での不祥事が生じないように、また②大学の発展に資する教育・研究の質の向上、学生支援(就職支援)の充実や業務効率の向上に関わる経営や運営についても、適切な指摘や助言を行っています。学生と教職員を合わせておよそ10,000人を擁する自由度の高い職場において、規律を守り、ムダを省き、業務効率を高めつつ、優れた教育効果を挙げてもらいたい。そういう国民の皆さんの期待を念頭に置きながら本学の飛躍的な発展に資するように、監事としてその使命を果たしたいと思っています。

Profile

昭和16年生まれ。三重県出身。名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了。
岡豊田中央研究所勤務後、文部科学省学術官連携コーディネーターを経て、
平成20年岐阜大学監事。専門は自動車の摩摺・潤滑工学。

水谷嘉之



監事



戸田 一彦

監事
(非常勤)

監事としての使命

監事は、その所属する組織の業務運営が適正かつ効率的に行われているか否かについて、公正不偏な立場で監査し、意見を表明することを使命としています。

岐阜大学における私たち監事の使命は、(1)岐阜大学の掲げる理念・中期目標から見て、大学運営が適正かつ効率的に行われているか、(2)財務諸表などは国立大学法人会計基準などに従い作成され、大学の財政状態および運営状況を正しく示しているか、(3)国立大学法人法その他の法令に反する重大な事項はないかなどについて、外部監査人や内部監査人と連絡を密にし、倫理性・準拠性・合理性そして独立性を堅持しつつ監査を行うことで岐阜大学の発展に貢献することです。

大学の最も重要な使命である教育、そしてそれをサポートする、いわゆる学生支援の業務に絞って言えば、(1)学生の意見を幅広く聴き、大学運営への参加意識を持てる仕組みの実現、(2)自習室・課外活動施設・学寮の整備などへの積極的投資、(3)インターンシップや就職活動支援のための組織・人員の充実など、学生満足度を高め、優秀な人材を育て「貢献する」岐阜大学の目標を達成できるよう、監事としての使命を果たしていきたいと考えています。

Profile

昭和15年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部卒業。
旭野義製薬㈱勤務後、昭和51年戸田会計事務所設立。
平成20年岐阜大学監事、公認会計士、税理士。

岐阜大学と地域医療そして市民のために

岐阜大学医学部附属病院は、国立大学の法人化と時期を同じくして平成16年春に司町から柳戸に新築移転しました。医学部附属病院として先進・高度医療の開発・実践を進めると同時に、高次救命治療センターを立ち上げ岐阜県の三次救急医療の中心的役割も果たしています。本年秋からは岐阜県のドクターヘリ事業が本院を基地病院として開始されるため、さらに救急患者の受け入れ増加が予想されます。

医学部附属病院は医学部とともに医師・看護師などの医療人の育成を行い、さらに臨床研究を進めて医学・医療の発展に寄与する役割も担っています。岐阜県は医師不足地域のひとつであり、少ない人手の中でこれらの役割を果たしつつ、積極的な運営、健全な経営を行っていくことは決して容易なことではありませんが、学長・理事をはじめとする大学執行部・医学部教員・病院職員と力を合わせ、岐阜大学と地域医療そして市民のためにより多く貢献できるよう頑張っています。

Profile

昭和33年生まれ。愛知県出身。岐阜大学医学部卒業。
平成2年岐阜大学大学院医学研究科博士課程修了。
平成10年岐阜大学医学部附属病院脳神経外科助手。平成16年教授。専門は脳神経外科。



岩間 亨

副学長
医学部附属病院長

廣田 則夫

副学長
国際戦略担当

『Study Abroad』プログラムの充実に向けて

「国際化」は、大学の教育・研究のあり方にとって重要なテーマであり、学内外で行われているさまざまな教育・研究プロジェクトと密接なかかわりを持っています。そして、取り組むべき課題がそれだけ多岐に及んでいます。

本学は40を超える海外の大学・学部と「学術交流協定」を結んでおり、これをもとにさまざまな共同研究プロジェクトの実施、研究者交流、夏期短期留学を含む「交換留学プログラム」などの教育・研究交流が行われています。

しかしながら、学生交流の根幹になる交換留学制度については、協定校からの受け入れ数に対して派遣学生数に大きな差が見られるのが現状です。若者の海外留学意欲の低下は、本学に限ったことではありませんが、社会がグローバル化する中であって、殻の中の居心地の良さに満足しているわけにはいかないのも事実です。異なる歴史・文化をもつ国・地域に身をさらしながら自己研鑽を積み、そういった機会を積極的に求めてほしいと思います。夏期短期留学、交換留学、海外大学への進学相談などさまざまな形の「Study Abroad」プログラムを提供・充実させ、「学生交流」を軸とした積極的な「国際化」を進めていきたいと思っています。

Profile

昭和28年生まれ。宮城県出身。山形大学人文学部卒業。
昭和57年筑波大学大学院人文・言語研究科博士課程単位取得退学。
昭和61年岐阜大学教育学部助教授。平成13年教授。専門は英語学。

一人ひとりの活力発揮と連携力の開花を願って

「日本近代文学におけるドイツ思想・文化受容論」「地域学・地域研究としての郷土文学論」を主要な研究テーマとしている私は、地域科学部で明治期以降の文学・文化史の講義と卒論・修論指導を、全学共通教育科目としては現代小説が題材の「文学」授業を担当しています。

本年4月に、岐阜大学における「男女共同参画推進」「環境対策」「就職支援」という、それぞれ重要な3担当課題をいただきました。私自身の役割は、構成員が性差・文系理系・職掌に縛られず、それぞれの個性と能力を思う存分に発揮できるよう、微力ながら橋渡しをしていくことであると考えています。

「女性研究者支援プログラム育成事業」「文系理系の枠を超える環境プロジェクト」「大学生の就業力育成支援事業」のいずれの課題も、スタッフメンバーと力を合わせて地道に粘り強く、ときに繊細に、ときに大胆に実践していくことが求められていると自覚しています。

構成員一人ひとりの活力が学内外で発揮され、地域社会の皆様とさらなる連携を深められるよう、その基盤づくりの構築に邁進したいと願っています。皆様からのエールが何よりの励み！ ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

Profile

昭和30年生まれ。岡山県出身。岡山大学法文学部卒業。
昭和62年神戸大学大学院文化学研究科博士課程単位取得退学。
昭和62年岐阜大学教養部講師。平成8年地域科学部教授。専門は日本近代文学。



林 正子

副学長
男女共同参画推進・環境対策・
就職支援担当